

**令和3年度実施
(2021年度実施)**

**雇用主アンケート
調査報告書**

**令和3年(2021年)11月
別府大学短期大学部**

はじめに

本学の雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として、卒業生の雇用先にご協力をお願いして実施しています。同時期に実施している卒業生アンケートについても同様の目的で、卒業生の協力のもと、本学の教育内容の改善に活用させていただいております。

この雇用主アンケートは、短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、雇用先から多くの貴重なご意見をいただいております。この場を借りて、お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた本学卒業生の雇用先の方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した雇用主アンケート調査報告書が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っております。

令和3年(2021年) 11月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

令和3年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
雇用主アンケート調査結果	
(1) 食物栄養科調査結果	2
(2) 初等教育科調査結果	7
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	15
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	16
食物栄養科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	18
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	18
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	19
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	20
初等教育科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	21
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	21
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	22
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	22

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第 1 条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第 2 条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD 委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第 3 条 調査対象は以下の 2 つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第 4 条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD 委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第 2 四半期から第 4 四半期の一定期間（10 日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第 5 条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD 委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第 6 条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第 7 条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 21 日から施行し、令和 2 年 8 月 1 日から適用する。

雇用主アンケート

調査方法	アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計		
調査期間	アンケート協力依頼文書発送日(令和3年8月16日)から同年9月3日回答締め切り		
調査対象	各科とも令和2年度卒業生の雇用先全数調査		
	食物栄養科	28施設(社)	回収率 46.4%
	初等教育科	119施設(社)	回収率 56.3%

食物栄養科【送付：28 回収：13 回収率：46.4%】

【I. はじめに貴施設(社)についての基本事項にお答えください】

問 1-1：御回答いただく貴施設(社)の所在地を市町村までお答えください。

所在地	回答数	割合
大分県大分市	5	38.5%
大分県別府市	3	23.1%
大分県臼杵市	1	7.7%
大分県杵築市	1	7.7%
大分県豊後大野市	1	7.7%
宮崎県宮崎市	1	7.7%
香川県高松市	1	7.7%
合計	13	

大分市の施設からの回答が 38.5%と最も多く、別府市 23.1%の回答であった。昨年の就職地域は、大分市 55.8%、別府市 9.3%、その他 23.3%であり、県外は 11.6%であったため、回答所在地と比率は概ね一致する。

問 1-2：御回答いただく貴施設(社)の従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)をお答えください。

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	8	61.5%
50～99	2	15.4%
100～199	1	7.7%
200～	2	15.4%
合計	13	

こども園・保育園に就職したものが 50%近くを占め、それらの施設の特性から 50 名未満という回答が 61.5%を占めている。

問 1-3：御回答いただく貴施設（社）の業種をお答えください。

業種	回答数	割合
認定こども園	5	38.5%
保育園	1	7.7%
保育施設	1	7.7%
保育所	1	7.7%
児童福祉施設	1	7.7%
給食事業部	1	7.7%
社会福祉事業	1	7.7%
クレジットカード業	1	7.7%
飲食業	1	7.7%
合計	13	

子ども園・保育園系が合計 69.2%、給食事業部が 7.7%と概ね卒業生の就職先の比率と合致している。

問 2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業（業種）	回答数	割合
栄養士（調理員含む）	11	68.8%
事務（受付、窓口業務、経理等），	1	6.3%
接客	1	6.3%
その他	3	18.8%
合計	17	

※卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択

栄養士が 68.8%の割合であり、卒業生が専門知識を活かして就職していることが伺える。その他の回答は子育て支援員 1、保育教諭 1、保育士 1 であり食物栄養科と初等教育科の両学科の卒業生が就職した施設の回答であることが推察される。

問 3 過去 5 年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

（ア）現在、何名が在職していますか。 [食物栄養科卒業生]。

在職人数	回答数	割合
1 人	7	53.8%
2 人	4	30.7%
4 人	1	7.7%
7 人	1	7.7%
合計	13	

今回のアンケートで回答の多かった子ども園・保育園の多くは栄養士の雇用人数が 1～2 名である施設が多いため、この間の回答も 1 人～2 人が多くなったものと推測できる。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1	女	平成 28 年	平成 30 年 3 月	2 年	自己都合
2	女	平成 30 年 4 月	令和 3 年 3 月	4 年	自己都合
3	女	令和 3 年 4 月			
4		令和 3 年 4 月	令和 3 年 7 月	3 ヶ月	一身上の都合により
5	女	令和 3 年 4 月	令和 3 年 8 月	4 ヶ月	
6	多数の為確認困難				

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

今回回答いただいた内容では離職するまでの期間の最長が 4 年、最短が 3 ヶ月となっていた。また多数の為確認困難という回答もあり、離職者が少なくないことが伺えた。

問 4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・コミュニケーション能力
- ・一般常識、礼儀作法、順応性
- ・課題発見や解決力、コミュニケーション、専門知識、責任感、積極性、主体性、協調性 等
- ・健康、体力、勤勉さ、聴く姿勢、感謝と敬いの心、向上心。
- ・心身ともに健康な人 コミュニケーション能力、行動力、協調性のる人
- ・人と馴染む事
- ・人間性
- ・人間性、知識、意欲
- ・人柄
- ・人柄、他
- ・前向きな人柄
- ・保育が大好きな人 なにごとにも真剣になれる人子どもの笑顔が好きな人
- ・明るく健康的で食に関心り、努力している (原文のまま)

新卒者の採用にあたっては『コミュニケーション能力』や『人間性』を重視しているという回答が多く見られた。

【Ⅱ 2021 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

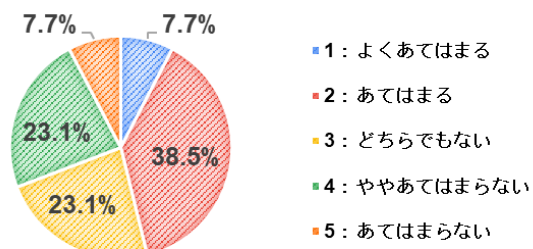
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.7%
2：あてはまる	5	38.5%
3：どちらでもない	3	23.1%
4：ややあてはまらない	3	23.1%
5：あてはまらない	1	7.7%

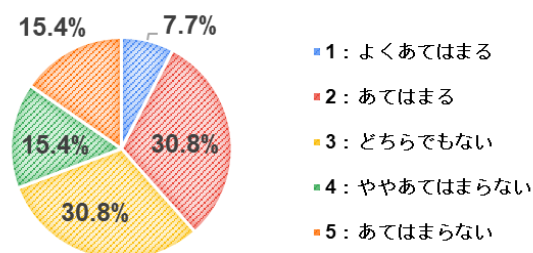


基礎的な教養については、1 よくあてはまる、2 あてはまるという回答で 46%を占めているが、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないという回答も 30%を超えている。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

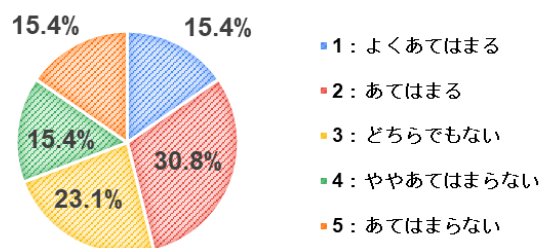
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.7%
2：あてはまる	4	30.8%
3：どちらでもない	4	30.8%
4：ややあてはまらない	2	15.4%
5：あてはまらない	2	15.4%



専門に関する知識・技能の修得については、1 よくあてはまる 2 あてはまるという回答が 38.5%であり、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないという回答が 30.8%あった。

問 7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	15.4%
2：あてはまる	4	30.8%
3：どちらでもない	3	23.1%
4：ややあてはまらない	2	15.4%
5：あてはまらない	2	15.4%

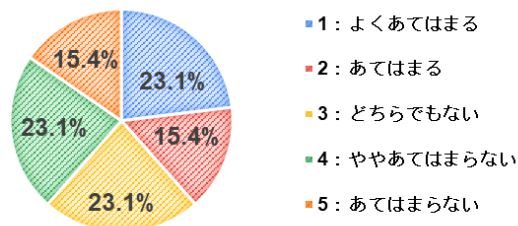


1 よくあてはまる、2 あてはまるの合計割合が 46.2%であり、半数近い施設が卒業生は専門職として職業生活を円滑に始めることができていると回答していただいている一方で、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないの合計も 30.8%であった。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問 8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

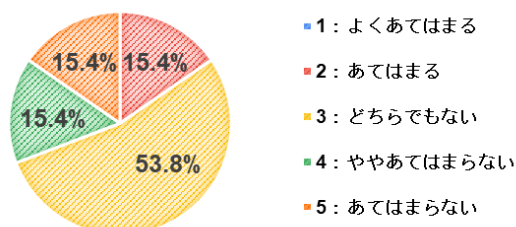
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	23.1%
2：あてはまる	2	15.4%
3：どちらでもない	3	23.1%
4：ややあてはまらない	3	23.1%
5：あてはまらない	2	15.4%



1 よくあてはまる、2 あてはまるの合計割合は 38.5%、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないの合計も 38.5%となっており、高い評価と低い評価の割合が同数であり施設によって評価が分かれていることが伺えた。

問 9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	2	15.4%
3：どちらでもない	7	53.8%
4：ややあてはまらない	2	15.4%
5：あてはまらない	2	15.4%



1 よくあてはまるの回答数は 0 であり、2 のあてはまるとした回答が 15.4%、4、5 のあてはまらないとした回答の合計割合が 30.8%、どちらでもないとした回答が 53.8%であった。2 年間の限られた教育課程においては国際的な動向に関心を向ける機会が不足していることが推察される。また、社会生活に必要な情報通信技術の活用についても同様であろうと考えられるが、保育園・こども園など卒業生の就職先でのこれらの能力を発揮・活用する場の不足も考えられる。

問 10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・どんな個性もそれを活かせば良いと思う。
- ・今年度新卒者は、無遅刻無欠勤で頑張っておりますので、ゆっくりと成長を願って育てて行きたいと思ひます。ただ、小さな子どもの命を守る現場であることの自覚は、新卒者も他の職員と同様欠かせない旨、本人に日々、何度も伝えているところです。
- ・四国へのUターン事案があればぜひご斡旋ください。
- ・二人共、自分の考えを明確に持っており、円満な性格。今後共、卒業生にエールを送って頂きます様にお願ひ申し上げます。
- ・対象者から退職の意向があるようにきいています。採用に関して弊社も再度見直し、努力することに努めて参りたいと思ひますので、今後とも弊社ご支援の程よろしくお願ひいたします。

卒業生に期待するお褒めの言葉や、今後の卒業生の就職を期待していただける意見がある一方で、基本的な社会人としての心構えや能力などに関する厳しい意見も見られた。

初等教育科 【送付：119 回収：67 回収率：56.3%】

【Ⅰ はじめに貴施設（社）についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設（社）の所在地及び従業員数・職員数（企業の場合は全体の人数）、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	30	44.8%
大分県別府市	11	16.4%
大分県臼杵市	4	6.0%
大分県速見郡日出町	3	4.5%
大分県豊後大野市	3	4.5%
大分県由布市	3	4.5%
大分県中津市	2	3.0%
大分県杵築市	1	1.5%
大分県国東市	1	1.5%
大分県竹田市	1	1.5%
大分県津久見市	1	1.5%
大分県日田市	1	1.5%
県外	6	9.0%
合計	67	100.0%

学生数だけでなく求人件数の多い大分市の施設からの回答が 44.8%と最も多く、別府市 16.4%の回答であった。昨年の就職地域は、大分市 47.1%、別府市 17.6%、その他 27.1%であり、県外は 8.2%であったため、回答所在地とほぼ一致する。

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	51	76.1%
50～99	12	17.9%
100～199	1	1.5%
200～	3	4.5%
合計	67	100%

以下3)の質問にあるこども園・保育園・幼稚園に就職したものが大半であるため、施設の特性から50名未満の小規模な施設が76.1%を占めている。

3) 業種

業種	回答数	割合
保育園	29	43.3%
幼稚園	6	9.0%
認定こども園	17	25.4%
施設	8	11.9%
その他	7	10.4%
合計	67	100.0%

その他に分類した7施設は小学校教諭（臨時1名含む）であるため、初等教育科で取得した保育士資格、幼稚園・小学校2種免許状の専門資格を活かした就職先からの回答(100%)であった。

問2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業（業種）	回答数	割合
保育士	32	41.6%
保育教諭	20	26.0%
幼稚園教諭	10	13.0%
小学校教諭	7	9.0%
事務（受付、窓口業務、経理等）	1	1.3%
その他	7	9.0%

※卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択

前問3と同様、卒業生は専門資格を活かして就職していることがうかがえる。事務・その他の職業は食物栄養科と初等教育科の両学科の卒業生が就職した施設の回答であることが推察される。

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。[初等教育科卒業生]。

在職人数	回答数	割合	在職人数	回答数	割合
1人	18	26.9%	6人	5	7.5%
2人	11	16.4%	7人	5	7.5%
3人	7	10.4%	8人	3	4.5%
4人	8	11.9%	10人	5	7.5%
5人	5	7.5%			

前問2)にあるように、多くの雇用先が保育園・幼稚園・認定こども園で小規模な施設であるにもかかわらず、10名の在籍者がいる施設が5箇所あり、5名以上の施設も23箇所(34.5%)のぼり、本学の卒業生が多く就職していることがうかがえる。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1		平成 13 年 4 月	令和 3 年 3 月	19 年 11 ヶ月	自己都合 (夢に向かって)
2	女	平成 19 年 4 月	平成 31 年 3 月	11 年 11 ヶ月	結婚のため退職
3		平成 21 年 4 月	令和 3 年 3 月	11 年 11 ヶ月	祖母の介護
4		平成 23 年 4 月	令和 3 年 3 月	9 年 11 ヶ月	自己都合
5	女	平成 24 年 11 月	平成 31 年 3 月	6 年 4 ヶ月	自己都合による
6	女	平成 25 年 4 月	平成 28 年 3 月	2 年 11 ヶ月	結婚のため退職
7	女	平成 26 年 4 月	令和 3 年 3 月	6 年 11 ヶ月	結婚のため退職
8	女	平成 28 年 4 月	令和 3 年 3 月	4 年 11 ヶ月	体調不良のため
9	女	平成 28 年 4 月	令和 3 年 1 月	4 年 9 ヶ月	出産のため
10	女	平成 29 年 4 月	令和 3 年 3 月	3 年 11 ヶ月	結婚のため退職
11	女	平成 29 年 4 月	平成 30 年 3 月	0 年 11 ヶ月	他園からの引き抜きにより転職。
12	女	平成 29 年 4 月	令和 3 年 3 月	3 年 11 ヶ月	公立学校教諭採用のため
13	男	平成 29 年 4 月	令和 3 年 3 月	3 年 11 ヶ月	公立学校教諭採用のため
14	女	平成 29 年 4 月	平成 29 年 5 月	0 年 1 ヶ月	不明
15	女	平成 29 年 4 月	令和 3 年 3 月	3 年 11 ヶ月	結婚のため
16		平成 29 年 4 月	平成 31 年 3 月	1 年 11 ヶ月	転職のため
17	女	平成 29 年 5 月	令和 2 年 2 月	2 年 9 ヶ月	配偶者転勤のため
18	女	平成 29 年 6 月	令和 2 年 12 月	3 年 6 ヶ月	病気のため
19	女	平成 30 年 4 月	平成 31 年 3 月	0 年 11 ヶ月	自己都合
20	女	平成 30 年 4 月	令和 3 年 7 月	3 年 3 ヶ月	出産のため
21	女	平成 30 年 4 月	令和 3 年 3 月	2 年 11 ヶ月	公立学校教諭採用のため
22	女	平成 30 年 4 月	平成 31 年 3 月	0 年 11 ヶ月	結婚
23	女	平成 30 年 4 月	平成 30 年 8 月	0 年 4 ヶ月	私事都合による退職
24	女	平成 30 年 4 月	平成 30 年 9 月	0 年 5 ヶ月	病気のため
25	女	平成 30 年 4 月	令和 2 年 3 月	1 年 11 ヶ月	実家で生活するため
26	女	平成 30 年 4 月	令和 3 年 3 月	2 年 11 ヶ月	結婚
27	女	平成 31 年 4 月	平成 31 年 5 月	0 年 1 ヶ月	自己都合
28	女	平成 31 年 4 月	令和 2 年 3 月	0 年 11 ヶ月	自己都合
29	女	平成 31 年 4 月	令和 2 年 3 月	0 年 11 ヶ月	他職へ就くため
30	女	平成 31 年 4 月	令和 1 年 12 月	0 年 8 ヶ月	体調不良のため
31	女	平成 31 年 4 月	令和 2 年 3 月	0 年 11 ヶ月	通勤時間がかかるため
32	女	平成 31 年 4 月	令和 3 年 3 月	1 年 11 ヶ月	一身上の都合
33	女	令和 1 年 4 月	令和 3 年 3 月	1 年 11 ヶ月	公立学校教諭採用のため
34	女	令和 1 年 4 月	令和 3 年 4 月	2 年 0 ヶ月	先輩職員がキツイため
35	女	令和 2 年 4 月	令和 2 年 7 月	0 年 3 ヶ月	自己都合
36	女	令和 3 年 4 月	令和 3 年 9 月	0 年 5 ヶ月	過敏性腸症候群・ストレス
37					4 人退職
38					結婚のため
39					体調不良のため
40					臨時講師のため

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

10 年を超えて勤務し離職するものがある一方で、1 年に満たない離職者が 13 名存在している。理由としては自己都合が一番多く詳細は不明であるが、中でも病気を理由としたものが 3 名、公立への採用や他の職への転職もある。

問 4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・ 保育力 (高い専門性、幼児教育に対する愛情・熱意) (11)

- ・人間性・性格（優しさ・子どもが好き）（10） ・ 明るい性格（笑顔・活発・プラス思考・ユーモア精神）（5）
- ・向上心（やる気・情熱・探究心）（5） ・ 誠実さ・真面目（4） ・ 責任感（3）
- ・社会人基礎能力（挨拶・常識・基礎学力・考えを伝える・受け入れる）（6）
- ・コミュニケーション能力（5） ・ 社会性・協調性・適応力（4）
- ・働く意欲（積極性・書類作業にも真剣に取り組む）（5）
- ・心身共に健康（3）
- ・機動性・周囲を察知する力（1）
 - ・人権感覚（1） ・ ピアノができる（1）

（＊代表的な意見を抜粋し、成作者が分類・数値化した）（複数回答）

コミュニケーション能力に代表される対人スキルや、社会人基礎力としての一般常識・教養、社会人としての誠実さや責任が挙げられているが、雇用主は、明るく周囲と強調できる人間性や保育・教育に対する情熱・向上心など就業意欲を重視していることがうかがえる。

【Ⅱ 2019 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

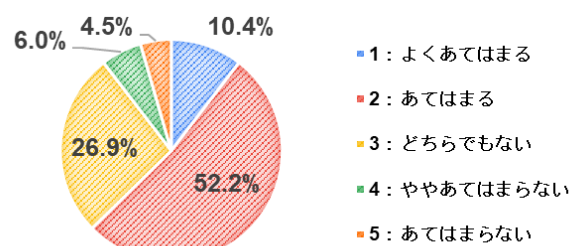
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	7	10.4%
2：あてはまる	35	52.2%
3：どちらでもない	18	26.9%
4：ややあてはまらない	4	6.0%
5：あてはまらない	3	4.5%

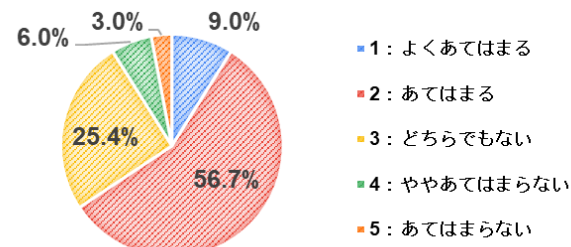


基礎的な教養については、1 よくあてはまる、2 あてはまるという回答が 6 割を超えているものの、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないという回答も 1 割を超えている。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

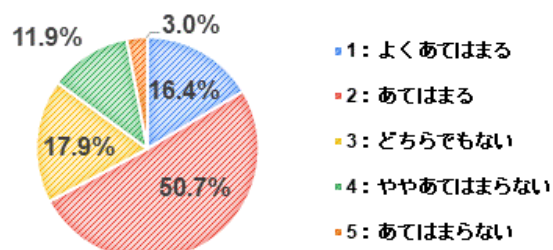
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	9.0%
2：あてはまる	38	56.7%
3：どちらでもない	17	25.4%
4：ややあてはまらない	4	6.0%
5：あてはまらない	2	3.0%



専門に関する知識・技能の修得については、1 よくあてはまる 2 あてはまるという回答が 65.7%であり、4 ややあてはまらない、5 あてはまらないと回答した施設が 6 か所(9.0%)あった。

問 7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	11	16.4%
2：あてはまる	34	50.7%
3：どちらでもない	12	17.9%
4：ややあてはまらない	8	11.9%
5：あてはまらない	2	3.0%

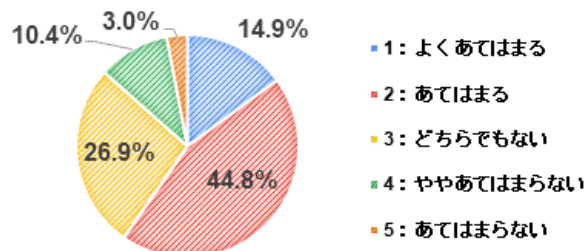


評価の高い1 よくあてはまるが16,4%、2 あてはまる50,7%と6割強が専門職として職業生活を円滑に始めることができている一方で、4 ややあてはまらない11,9%、5 あてはまらない3,8%で低い評価も15,7%となっている。卒業生の個人の特性も考えられるが評価が分かれている。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

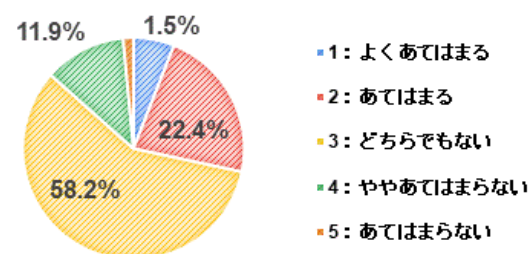
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	10	14.9%
2：あてはまる	30	44.8%
3：どちらでもない	18	26.9%
4：ややあてはまらない	7	10.4%
5：あてはまらない	2	3.0%



評価の高い1 よくあてはまるが14,9%、2 あてはまる44,8%と6割強が汎用性のある能力として思考力・実行力・コミュニケーション能力を発揮できている一方で、4 ややあてはまらない10,4%、5 あてはまらない3,0%で低い評価も13,4%となっている。問7と同様に評価が分かれている。

問9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	6.0%
2：あてはまる	15	22.4%
3：どちらでもない	39	58.2%
4：ややあてはまらない	8	11.9%
5：あてはまらない	1	1.5%



1、2のあてはまるとした回答が23.9%、4、5のあてはまらないとした回答が13.4%で、どちらでもないとした回答が6割強であった。2年間の限られた教育課程においては国際的な動向に関心を向ける機会が不足していることが推察される。また、社会生活に必要な情報通信技術の活用についても同様であろうと考えられるが、保育園・幼稚園・こども園等での現段階での活用する場の不足も考えられる。

問 10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・今後、新卒者が職場の戦力となり活躍出来るように、励ましていきたいと思います。
- ・子ども、保護者、同僚などに対して誠実に向き合える人間性の育成を強く求めます。
- ・就職につながるように実習生を毎年送っていただきたい。また、一度就職したらせめて3年間は勤めるように指導していただきたい。
- ・実習に来てくれた学生さんの様子をみさせていただきながら、職員みんなで声をかけ採用させていただこうと思っています。実習生は皆一生懸命に頑張ってくれており、とてもありがたいです。
- ・障がい児に関わる仕事に興味のある(就職したい)方に実習に来ていただきたいです。
- ・2名の内1名はメキメキと成長し、先輩方が目を見張っていて共に仕事をする上で楽しい。もう1名はここという時によく休む。運転免許がないので同僚に迷惑をかけている。親分肌でやるときはやる気持ちがあるので、継続勤務ができる様に支援をしている。
- ・根気強く指導する矢先に退職希望で、年度途中もあり、残された子どもたちが可哀そうで仕方がありません。同時に指導不足を悔やみます。
- ・個人差の幅が大きい
- ・お便り作成などの情報処理能力(PC操作)や工作(物づくり)の知識・技術があるとすぐに役に立ちます。
- ・社会一般常識を出来る限り教えてほしい。
- ・文章力の強化(漢字を使う事も含めて)、人に伝えるための表現法や言葉のつかい方等
- ・豊かな人間性を育ててください。
- ・人相手の仕事は、コミュニケーション能力が高いことが全てに関わるので、そういう学生の育成が必須だと思います。
- ・誠実に情熱を持って従事しています。わからないことも聞いてよく動いています。理解力も高く基本も身に付いて、質が高い方です
- ・とても真面目で仕事への取り組みも積極的である。
- ・誠実に職務に専念しています。
- ・明るく元気に頑張っています。
- ・明るく熱心な働きぶりです。
- ・真摯に子どもと向き合っています
- ・本年度採用2名は、とても頑張って日々保育に取り組んでいます。
- ・貴短期大学の学生は明るく活発な人材が多く、大きな戦力として活躍してもらっている。
- ・卒業生の先生たちに活躍していただき、とても助かっております。
- ・天草市は学生の流出が多く人材不足です。天草に興味がある方はぜひ就職活動をお願いしたい。
- ・来年度も採用予定であるので、積極的に採用試験に応募して欲しい。
- ・学内説明会等の開催をお願いいたします
- ・採用情報をより直接的に伝えられる機会があればありがたいです。
- ・コロナ禍での学びは大変だと思います。また、実習等気を使う事が多いと思います。先生方、どうぞご自愛ください。

卒業生に期待するお褒めの言葉がある反面、個人差のある社会人としてのマナー、社会人基礎能力に対する貴重な意見等が寄せられている。また、多角的視野やキャリアデザインを描くことを期待する一方で、保育に関する身近な体験や・知識・技能を重要視する意見もある。学生時代に、職業人として通用する意識改革や現場で通用する知識・技能の修得・研鑽など、広い視野を持ちグローバルに活躍する人材の育成を雇用先は求めていることがうかがえる。

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価 I」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得す

ることが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	基礎的な教養の修得については、「よくあてはまる」と「あてはまる」の肯定的な回答が46.2%であり、昨年度（約7割）と比較するとかなり低い結果であった。また、「どちらでもない」が23.1%であった。 一方で「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答は30.8%あり、教養が身につけていない卒業生の割合がやや多かった。 教養のDP達成度は、肯定的な回答とどちらでもない回答を合わせて69.3%であることから評価を3にした。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

教養の評価について、肯定的な回答は約5割であり前年度（約7割）と比較するとかなり結果となった。半数の卒業生は教養を修得できているが、一方で否定的な回答が3割とやや多いことが問題であり、今後改善していかなければならない。

回答率が低く、早期離職した卒業生の割合が前年度より増えたことがアンケート結果に影響していると考えられる。早期離職した施設からは、自由記述で社会的な常識の欠如を指摘されている。進路指導、就職ガイダンス等の時間を利用して、社会生活を送るために必要な基本的な常識について教育・指導を強化する必要があると思われる。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由（
3	専門に関する知識・技能を修得しているかについては、「よくあてはまる」と「あてはまる」の肯定的な回答が38.5%であり、昨年度（約7割）と比較するとかなり低い結果であった。また、「どちらでもない」が30.8%であった。一方で「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答も30.8%であり、専門的な知識・技能が身についていない卒業生の割合がやや多かった。 また、判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかについては、「よくあてはまる」と「あてはまる」の肯定的な回答が46.2%、「どちらでもない」が23.1%であった。「ややあてはまらない」、「あてはまらない」の否定的な回答は30.8%であった。 専門力のDP達成度は肯定的な回答とどちらでもない回答を合わせて約7割であることから評価を3にした。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価について、卒業後に栄養士で就職したか一般職で就職したかによって結果が大きく変わってくるので分析は困難である。しかし、肯定的な回答の割合が前年度と比較して少なくなったことは問題である。

専門的な知識・技能の低下の要因として、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン授業を強いられ対面授業が少なくなったこと、学外実習の中止による学内実習での代替措置等が大きく影響していると考えられる。さらに、求人数の減少により就職先を選択する幅が少なくなり、自分の希望する施設に就職できず早期離職したケースも見られたことも結果に影響していると思われる。

2年間という短い期間で養成する施設が感染症対策を講じながら専門的な知識及び技能を修得させることは容易ではないが、就職先で困らない程度の専門力を修得させられるように専門科目の教育内容、遠隔授業の実施内容の見直し及び改善が必要である。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
3	社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮しているかについては、「よくあてはまる」と「あてはまる」の肯定的な回答が38.5%であり、昨年度（約7割）と比較するとかなり低い結果であった。また、「どちらでもない」が23.1%であった。 一方で「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答は38.5%であり、コミュニケーション能力等の汎用力が身につけていない卒業生の割合が例年よりやや多かった。 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、「よくあてはまる」と「あてはまる」の肯定的な回答が15.4%であり、昨年度（約3割）と比較するとかなり低い結果であった。また、「どちらでもない」が53.8%であった。 一方で「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答は30.8%であり、情報通信技術の活用等について修得できていない学生の割合が多かった。 汎用力のDP達成度は、肯定的な回答とどちらでもない回答を合わせて6割から7割であることから評価を3にした。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

汎用力の評価について、どの項目も肯定的な回答の割合が前年度と比較して少なくなった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面授業によるグループ学修の減少や、学校行事、地域貢献活動の機会が減少したことが要因で、汎用力の修得が難しかったと思われる。

国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、特に評価が低く、肯定的な回答は15%しか無かったため今後指導を強化していくことが強く求められる。

初等教育科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	「よくあてはまる」との回答が 10.4%であり、「あてはまる」との回答が 52.2%である。6 割を超える回答となっていることから基礎的な教養を概ね身につけていると言える。 一方、「どちらでもない」との回答が 26.9%であり、やや高い回答となっているため注視すべき点である。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

雇用主アンケートの評価から、3の評価が得られ、教養は概ね修得できていると思われる。
自由意見においては、基礎的能力に関する意見もありながら、本学の卒業生に対して多くの期待を寄せられていることがわかる。就職者において若干の個人差もあるものの一定の評価を得ていると言える。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由（
3	問6については、9.0%%が「よくあてはまる」、56.7%が「あてはまる」と回答し、概ね6割が修得していると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が25.4%であり、「ややあてはまらない」6.4%、「あてはまらない」3.0%となっている。 また、問7については、16.4%%が「よくあてはまる」、50.7%が「あてはまる」と回答し、概ね6割ができていると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が17.9%であり、「ややあてはまらない」11.9%、「あてはまらない」3.0%となっている。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価については、3の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられる。自由意見では、本学卒業生への専門力の修得については評価を得ていると言える。専門職として職業生活を円滑に始めることができているかという項目において個人差も見受けられる。さらに学生時代の知識・技能に加え、人材育成に関する要望も見受けられる。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4）	理由
2	問8では、14.9%%が「よくあてはまる」、44.8%が「あてはまる」と回答し、概ね6割が修得していると評価している一方、「どちらでもない」との回答が26.9%であり、「ややあてはまらない」10.4%、「あてはまらない」3.0%となっている。 また、問9では、6.0%が「よくあてはまる」、22.4%が「あてはまる」が3割にとどまっている。一方、「どちらでもない」との回答が58.2%である。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

思考力、実行力、表現力については概ね修得できているが前回の調査と比較すると若干の低下が見られる。自由記述からコミュニケーション力や実行力を求められていることから在学中の指導強化が求められる。

現状から国際的動向については発揮できる事象や関心を向ける機会が依然として不足していることが推察される。情報通信技術については就職先において現状での活用の方や発揮できる場の不足も考えられる。